

# 弥生時代のむらー装身具（アクセサリー）

弥生時代における装身具には、勾玉と管玉などがあります。



勾玉（縄文時代から）



管玉（弥生時代から）

勾玉も管玉も、どちらも石を使って形を作っていきます。  
勾玉・管玉のもととなる材料（ヒスイ・碧玉など）の塊を  
割ったり、削ったりして形を整えていきます。

こうした玉製品からは、当時の交易の様子を知ることができます。

特にヒスイは、そのほとんどが新潟県糸魚川市を流れる

川から取れたものだということがわかっています

また、山陰地方や九州の北西においては、北陸産ではないかという管玉が  
発見されています。

## ポイント

勾玉・管玉は、その材料・製品ともに、全国的な  
流通があったようです。当時、お金は存在しませんので  
物々交換による交易が行われたのではないのでしょうか。